

1-6 エンゲルスの忠告に従ったし、従わなかった

「マルクスのやった大きな失策」への返書

「『資本論』第1巻の] つづきの四ボーゲンを送る。昨日僕のところに着いたものだ。…

この四ボーゲンに君が満足してくれたらよいと思う。君のこれまでの満足は、僕にとっては、ほかの世間がそれについていうどんなことにもまして大切なものなのだ。……

価値形態の展開にかんしては、君の忠告に従ったし、また従わなかった、この点でも弁証法的にふるまうために。すなわち僕は、第一に、一つの付録を書いた、そのなかでは同じことをできるだけ簡単に、そしてできるだけ学校教師的に述べる。そして第二に、君の忠告に従って各前進命題をそれぞれ § § などで別々の見出しで区分した。それから序文のなかで「弁証法的でない」読者のために、x-y ページをとばしてそのかわりに付録を読め、と書く。(青山の注-以下はエンゲルスの忠告に従わなかった理由)相手にするのは俗人ばかりではなく、知識欲のある青年などもいる。その上、事からは本全体にとってあまりにも決定的だ。……」 *……は、青山の省略

②-[132]P349(エンゲルスあてのマルクスの手紙1867. 6. 22)

エンゲルスの忠告に従ったことを示す追伸

②-[133]P351(エンゲルスあてのマルクスの手紙1867. 6. 27)

「…付録の取扱いではいかに正確に君の忠告にしたがったかをみてもらうために、この付録の区分、段落、題などをつぎに書き写しておく。(青山の注-以下に第1章第1節(価値形態)への付録の目次が記載されている)」